

詩人論（其五）：論説

著者	鎌田，辰郎
雑誌名	龍南會雜誌
巻	3 2
ページ	1 6 - 2 5
発行年	1894-12-21
URL	http://hdl.handle.net/2298/4481

る觀あるものは、職として其倫理的動力の正當あらざると、經濟的動力の正當あらざるとに由るのミ。未之を以て直に相背馳すといふべからざる也。

社會的現象の根本的思想は利己あるか、抑も亦利他なるか、今復之を言ふを俟たざるなり。要するに。是。が。動。機。た。る。も。の。は。實。に。人。類。の。活。動。力。也。就。中。經。濟。的。及。倫。理。的。動。力。也。此。自。然。の。大。法。に。従。ひ。此。隱。微。の。道。理。を。奉。じ。眞。に。經。濟。的。動。力。を。解。し。誠。に。倫。理。的。動。力。に。隨。は。い。社。會。は。調。和。を。得。た。る。時。代。に。達。し。眞。善。美。を。極。む。る。時。代。に。到。り。全。體。の。幸。福。を。受。け。眞。正。の。平。等。を。來。し。個。人。は。幸。福。に。國。家。は。繁。盛。あ。ら。ん。現。在。の。社。會。は。尙。其。道。途。の。み。而。も。遂。に。此。に。至。る。べ。き。行。路。た。る。也。

詩 人 論 (其五)

鎌 田 辰 郎

情想的詩人

(一) 情想的詩人とは何ぞや。

哲學的詩人と異りて、哲學的思想を欠ぎ、よし具備するもろを詩に發表せず、感情的詩を主とす。また道念詩人と異りて宗教家にあらず、善しとありとも、宗教的詩を吐露せず、専ら情想的詩を成さんとす。故に情想的詩人は必ずしも哲學を知らず、また必ずしも素行脩まらず。試みにセキスピヤをして第十九世紀の智識世界に誘ひ來らしめよ。忽ち茫然と去て自失するに至らむ。蓋集は心理學をも知らず、はた科學をも知らざりければなり。又試みにバイロンをして宗教社會に入らしよ。其精氣既に腐敗せり。渠は直に擯斥唾棄せられ了らむ。さればセキスピヤは哲學的詩人にあらず、バイロンは道念的詩人にあらず。特に他に優に一地歩を占めたり。情想的詩人は當に渠等に冠せしむべき命稱

あり。

われは詩は情想をのみ煥發する者に非るは幾度か之を論じたるを覺ゆ。然れども、詩其自身の傾向及詩人の意思より見るときは、常に情想的詩に於て最も巧妙の者多く詩人も又是を欲するが如し。その叙情詩、叙事詩（教義的詩を除きて）世相詩の如き殆んど大半は皆情想的あり。又古今の名作を繕けば、其詩人の大半は先づ、情想てふ坵塲中に五体を熔し、而て後製煉し來ざる幽玄の調あらざるはあし。世人是を知る、情想的詩人は即ち詩人の全体、詩人は即ち情想をのみ吐露する者ありと云ふ、蓋俄かに過言とは言ふべからざるあり。然れどもこの言の錯誤あるはわれ既に是を言へり。われ不肖淺識短才豈に詩人を知り得ざりと云はんや。然れどもわが思ふ所此の如きのこと。

今やわれは情想的詩人を分拆して左の如く云ふべし。

第一、其思想は哲學的（或は理學的）ならず、善し、然るもろを詩に現はさず。假令示すも一時の詩興あり。

第二、宗教家或は道德家にあらず。善し、然るも宗教的（或は倫理的）詩を吐露せず。假令示すも一時の詩興あり。

第三、己が情想を詩にし、或之自己以外の情想的の者を詩にし、さては情想的ならぬ者をも情想的詩に現はす。

依是哲學的詩人或は道念的詩人と此詩人と相異なるは自ら明瞭あらむ。然らば即ち右の要素中第一、第二は自ら明瞭あるも第三の要素に至りては未だ説明するを要す。己が情想とは何ぞや、はた自己以外の情想的の事とは何ぞや。是等は必ず讀者の問はんと欲する所あらむ。之を左にこれを説かむ。

(イ) 己が情想を詩にすとは何ぞや。

己が情想とは客觀の想を離れて主觀の想にある者にして智或は意の關する想を除きて所謂物事より對して感じて生じたる感情的思想あり。哲學的思想或は宗教的思想の如きはわが所謂情想にはあらず。感情激烈の詩人が春花秋月に對し忽ち詩情を惹起したる時の思想の如きは即ちわが所謂情想あり。この時に當りてや必ずしも以て哲學を語るに非ず、以て宗教道德を語るに非ず。火藥の一點、火を得たるが如く、電氣の同性電氣に接したるが如く、忽ち爆發し來る者にして、感情の熱爐より丹煉し來れる情想あり、「己が情想を詩にす」とはかゝる様の情想をば詩に現はすを云ふなり。故に現はれたる者は即ち叙情詩あり。現はす者は即ち叙情的詩人あり。かの藤原定家が

松山と契りし人はつれあくてろてこす波に残る月影

と云ふが如き思想は眞にわが所謂情想あり。その中には敢て哲學的(或は理學的)思想を含めるに非ず、又宗教道德を吐きて修身の道を教へんとする者にあらず。千秋の友に墓さく棄てられて涙潜々たる情を直寫したる者に非ずや。又かの在原の業平の如き芭蕉の如き貫之の如き皆己が情想を直寫したる詩人なり。

(ロ) 自己以外の情想的の者を詩にす。

自己以外の情想的の者とは主觀の者にあらずして客觀の者なり。而して智及意に關せる者を除ける感情の者あり。讀者は知らむ十八世紀の末葉より十九世紀に跨りて厭世的悲觀的觀念歐洲の野を一掃したる事あり。所謂『バイロニズム』或は『エルテルニズム』にして青春妙令の男女の紅頬をして凋落せしめたること幾許あるを知らず。此等の悲觀的思想の代表者となりて現出したる者をギヨ

オテの傑作少「エルテル」の悲哀とあす。（「エルテルニズム」の名は此書より來れるも其思想は以前よりありたり）此の如きは自己以外の情想をば詩に現はしたる者には非るか。（固より多少自個の經驗もあるべけれど）我國に於て西鶴、春水等の小説の如きは豈當時に流行せる感情的思想風俗をして實寫したる者に非ずや。或は馬琴の歴史小説の如き、京傳の稗史と云ひ、所謂自己以外の情想を詩にしたる者に非ずや。（其中には事其自身に情想的あらぬことを情想的あらしめたるもあり）或はセキスピヤの「ロメオ、アンド、ジュリエット」の如きリットン、サカレー、デッケンス等の如き自己以外の情想的の者を詩にしたる者許多なるを發見すべし。

因云情想的の者[◎]の者[◎]は事件[◎]と思想[◎]とを兼ね、故に情想的事實、又情想的思想を兼有す

此く云はゞ讀者中或は誤て情想的の者とは人間の情事をのみ指す者なりと思意する者あらむ。然れどその範圍の唯に是に限られざるは各自に看破するを要す。例せば叙情的詩人の胸中に有する情想をば客觀の地位にある戯曲的詩人が是を詩に發揮するは則ち自己以外の情想的の者を詩にすることに非ずや。故に自己以外の情想的の者を發揮する詩人には叙事詩人と戯曲詩人の二者あり。前者は事を主とし、後者はその事を原因する人心を主とすとの論に就ては後段更に論することあるべし。

ハ情想的あらぬ者をも情想的の詩にす。

凡る詩人は一面より觀察するときは骸骨に皮肉を被らする者とや云はむ。更に云へば裸体の眞理を被体の眞理とあらしむる者なり。更に一步を進めて云へば死体に詩氣を呼吸せしめて活物体とあらしむる者あり。詩人に靈氣あり。無生命の物も一度この靈氣に遭遇すれば躍如として飛動し來る。詩人の特性は實に茲に存す。故にこれ一度詩材を握らむか、其材の適不適を省みざるあり。これを哲學

的、に、現、は、す、者、は、哲、學、的、詩、人、あ、り、宗、教、的、(は、た、倫、理、的、)に、咏、す、る、者、に、は、道、念、的、詩、人、あ、り、而、し、て、情、想、的、に、歌、ふ、者、に、は、情、想、的、詩、人、あ、り、

セキスピヤを見ずや。渠の著書二十七種、豈盡く本來に於て情想的の者のこあらんや。閨巷の閑話雜談も是れあらむ、零編碎冊の昔物語も是れあらむ。その燦然たる詩装の内部を穿てば臭氣紛々たる骸骨の充滿せるを見るあるべし。而も渠何ぞ絶代の大詩人と稱せらるゝや。他なし。詩装を着せしむる技量あればあり。

ニ情想的詩人の種類。

情想的詩人の一般の性質に就てはわれ略説明し得たりと信ず。果して然らば情想的詩人の種類は如何なるべきら。われは今是を分ちて三種とささむ。曰く、叙情詩人、曰く、叙事詩人、曰く、戯曲詩人はありと。

此く分類し來るときは論者必ず云はむ。果してこの分類の如くむば情想的詩人とは詩人の全体とあるには非ずやと。曰くろは一理の存する語あり。然れども未だ論者はわが論を聞かずして非議する者なり。論者は『詩』を以て三種となし。一を叙情詩と云ひ、一を叙事詩とし、一を世相詩とす。従て詩人はまたこの三種に限らる。故に論者は詩人を命名するに現はれたる者よりのと溯求したる者にして、わが直に現はす者の性狀行徑に侵入し、併せて現はれたる者とを鑑みて詩人を命名したる者とは自ら差異する所あり。論者は哲學的詩及宗教的詩(總稱して教義的詩)をば盡く叙事詩の中に投込たり。於是乎論者の説ふよればとが云ふ所の道念的詩人と云ひ、哲學的詩人と云ひ、共に叙事的詩人(論者の所謂)中に入らざるべからず。是必畢するに命名する方法の差異より生じ來れるあり。

以上の論に付ては結論の章にて更に是を論ぜむ。

叙情詩人及叙事詩人に付ては更に論ぜざる可らざれど長く識者を煩はすを恐れ之を畧き戯曲詩人のみを論し次に結論をなして拙稿を終るべし。

戯曲詩人

戯曲詩人を論ずるには、勢戯曲を論ぜざるべからず。然れども是到底之が淺識の及ぶ所に非ず。又紙面に限れば少しく相關係せる所に涉るのみにして直に進むで戯曲詩人を論せんと欲す。

そも戯曲の性質として主觀を没し、客觀をのみ描かんとするは自然の勢あるべし。客觀中特に人事を寫し、世想を描くは戯曲の正に心丹を凝らす所にあらざるか。善き、戯曲は往々世相界を去りて、自然の光景等を描かんとする者ありども、其歸する所は遂に世相を描かんとする中心にあり。叙情詩人は然らず。叙事詩人は然らず。前者は世界を主觀的に限り、後者は客觀を描くにはあれど世相を描かず。叙情詩人は到る處主觀を示す。マコレーがバイロンを評する語に曰く、

バイロンはウナルツウナルスの如く戯曲的天才を有せず。渠は全然大戯曲家の正反對あり。試みに渠が現はしたる主人公を看よ。——故郷と太陽とが共に消へ行く西の空を顧みるハロルド——遙

に隴の寺院の側に佇み、其長外被の下よりして十字架圖と香爐とに於ける凄然たる容魂を睥睨せるギイアオル——高樓によりて劍を按ずるコンラッド——舞姫を見て莞爾たるラーラ——月を蓋

ひ行く叢雲を凝視するアルプ——ヘルヌの斷崖の中を彷徨マンフレッド——法庭場裡のアズアー

——原告としてのウーゴー——已が娘とシユアンと相諍せるを嫌感するラムブロー——さては受領すべからざる捧物を送るカイン——此等は必畢するよ盡く同一人間なり。其種々變化あるは單

に時代と位置と外装との變化のミ。假令バイロンを考て異種の人間を描かざめんとするも、到底不活潑にして不自然にならざるのみあらむ云々

と。是豈に叙情詩人と戯曲詩人との大差異を明了ならせめたる者に非ずや。叙事詩人と戯曲詩人との差異は、一は人事に關するも、そを人事の儘に描き、一は其人事に於ける役者の性質行徑を看取せむと試む。セキスピヤの戯曲の中には往々一見せば叙事詩の如く思はる者あるべし(固より戯曲の形式をふれど)蓋スコットの叙事詩も歴史に材料を取り、セキスピヤも、或はデンマルクの物語より化して「ハムレット」となり、羅馬の歴史より脱化して「シユリヤス、シーザー」とあり、さては「アントニー、アンド、クレオパトラ」となり、或は英史よりして「ヘンリ四世、五世、六世、八世、リチャード二世、三世」となる。其事跡を描くに於ては、何ぞスコットの叙事詩と相異なる所あらむや。かれも戦争あり、是も合戦あり、彼も史上の英雄あり、是れも歴史の豪傑あり。彼にも山川あり、此にも江山あり。然るにいふべければ一は叙事詩と稱し、其作者を叙事詩人と云ひ、一は戯曲と稱し、其著者を戯曲詩人と云ふか。形式の異なるに由る。然らず。一言にして差異點を指摘せば曰く一は事を主として一は性を主とすればあり。デ、クインシー、セキスピヤを論じ來りて曰く、

其位置及其四邊の事情等は凡て歴史に属す、(註、セキスピヤの歴史を材料として組立てたる戯曲に付て論じたる場合あり)然れども其人の性格は全然セキスピヤに属する者あり。

と。此語移して以て、叙事詩(其詩人と)戯曲との差異を説明する規矩どもありあむ。われは將た云はむとす。其事(詩中に於て)と其有様とを描くは叙事詩にあれど、其中に役く人の心情の行徑を辿るは戯曲に附屬せしめざる可らずと。マコレー歴史と歴史小説とを比較して曰く

歴史は地圖の如く、歴史小説は彩色せる山水畫の如し。

と。され、戯曲は更らに進むで、其山水畫中に蠢爾たる人間てふ動物の微ある心に潛み、其驅馳する所以、居坐する所以、さては悲鳴し、喜戯し、或は躍り、或は自殺する性狀の變化する様を、直寫し、或は間接に（即ち外來物を假り來りて）描寫せんとする者にはあらざるか。

惟ふに戯曲詩人は大意識家に非れば大無意識家あり。セキスピヤの戯曲を作るや、所謂かく／＼の理想に依りてかく／＼のことを著せんと志たるにはあらで、無意識的に有の儘に世態を描寫せたるにはあらざる（坪内雄藏氏は沒理想の語を以てセキスピヤの戯曲を評したり）セキスピヤの學識は僅に羅甸、希臘の細片を嚙り、伊太利、佛蘭西の僅少を心得たりと云ふに非ずや。渠は卑賤ある毛商兼手套製造人の長男に非ずや。渠は嘗て鹿を盜みたる者に非ずや。渠は嘗て毫末も文學上の榮譽を取らむとて戯曲を作りしに非ず、眞に渠の眼睛に映じたる儘の世相を惜氣もなく灑注せたるに非ずや。（アイヌの文學史參考）、渠はギョオアの如く哲學に精はしく、植物學に到し、理學に潛みて以て、一大理想を構へ、其理想に従て戯曲を作りしには非ず。渠は眞に世態の儘に描きしなり。渠は色眼鏡を懸けたる病者にあらず。渠は偏理想を以て世相を觀察せたる者に非ず。テイヌ曰く

セキスピヤは我等の有の儘を描けり。其主人公は悲境に落ち、慘まじき結果に落いる其夕に於て、通常我等に於けるが如く頭を下げ、人に向て新聞を問ひ、天氣の好惡を語らふに非ずや。ハムレットは時の何時あるかを問ひ、風の吹くを見出し、宴會と戶外に聞ゆる音樂とに付て語らひたり。而して本文と無關係にして、又機會（チャンス）が導き行く儘の隱微ある談話は、其父の幽魂凄然として現出し、以て復仇の念を萌さしむる瞬間に於て終れり。

と。げにや渠は已が理想の模形に人間を容を以て其形式の通りに之を作爲せんとする者に非ず。眞に無意識的に——鏡が事物を反映するが如く、八面玲瓏たる水晶が光線を到徹せしむるが如く、坪内氏の所謂没理想的に直寫せたる者には非ざるか、蓋し戯曲其自身の性質として、も當に然るべき處の者に非ずや。それらは毫末もセキスピヤを知る者も非ず。只先輩の説を參照し以て此論をなす者なり。然らば次は戯曲家は何か故に大無意識家なれば大意識家あるか。無意識家に付ては已に論せり、意識家に付ては左に論せんとす。

凡る人は有限の者にしあれば、已が理想を以て人世を描かんとせば、勢、偏路に走らざるを得ず。看よ、バイロンの理想の産物は凡て同一の人間に非ずや、ウチルズウチルスが人間は凡て同一の人にして又普通の人間性格以外の者あり。(現はれたる叙情詩の上より見て) 漂泊者(ウアルダン)と渠と、「パストル」と渠と、隱匿者と渠と、何の點に於てか異あれる、皆盡くマコレーの所謂時と位置と外装とを異にするのみ。團州一人にして、殿様とあり、奴となり、商人とあり、貴族とあり、奥方となり、下女となると何の異なる所かあらむ。是實に自己の理想。により人間を描くが故に偏僻に落りたるのみ。故に理想を以て偏僻あらぬ様に人間を描かむとせば、あらゆる物の理に通じ、普遍ある一大理想の人にあらでは人間をば眞實に描寫すること難かるべし。ギョオテの如きは大意識を以て(即ち大理想を以て)人世を描きしにはあらざるか。故に曰く戯曲家は大意識家にあらざれば大無識家なるべしと。

戯曲詩人既に以上の如しとすれば、戯曲詩人の種類はいかあるべきか。是を分ちて二とす。一、悲劇家。二、喜劇家。

セキスピヤの如き大詩人に至りては此兩家を兼併する者あり。其著二十七種中悲劇に属する物、十三、喜劇に属すべき者、十四種、而して時代物とすべき者は七種、戯曲あらぬ詩歌は三種あり。われは今や悲劇家と喜劇家とを論ずること能はず、百尺竿頭一步を進めて戯曲詩人は如何なる者を材料とすべきかを論せんと欲す。

雜 錄

條約に於ける土地の割譲及其人民

講師 羽生慶三郎

征清の師、連戰連勝、北京城頭に旭旗の翻がへるを見ること、當に遠きに非ざるべし。如何に頑迷ある豚尾漢も、遂に降伏の已むべからざるを感ずべけん。帝國の國光を宣揚し、歐米の景慕を來たさしむることは勿論、此戰勝に由りて、諸般の學問技術及び國際法上の、成例、新例の研究實行等に就き、大に世人の注目を要すべきものあるや明あり。條約の締結は固より大權の作用なれども、學問上又之を論する必要ありとせず。朝鮮の獨立、軍費の賠償等は、固より其條件の一たるべしと雖も、若し之のみを以て満足する能はずとすれば、必ずや彼領土の一部を割譲せしめて、以て我賠償及保証に充てざるべからず。然り而して彼の領土を果して我に割譲せたりとすれば、其割譲地に在る所の人民は、如何に處分すべきかの問題を生ず。即國の一部を割きて他國に與ふるときは、其讓與地と在る所の人民は、讓與に由りて、當然被讓與國の人民となるか、或は依然舊國の人民たるか。此問題は學理上面白き問題たるのみならず、亦方々目前の必要を見るあるべし。